岡崎市議会議長　様

支出番号	

議員名　　中根善明

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動旅行報告書

2022　年　3　月　30日提出

活動年月日	２０２２　年　１　月　６　日（木）～　７　日（金）	
氏名	中根善明	
用務先及び内容	1 1月 6 日	用務先　公益財団法人　全国市町村研修財団　全国市町村国際文化研修所 滋賀県大津市唐崎2丁目13-1
		内　容 市町村議会議員研修　2日間コース 第二回　防災と議員の役割
	2 1月 7 日	用務先　公益財団法人　全国市町村研修財団　全国市町村国際文化研修所 滋賀県大津市唐崎2丁目13-1
		内　容 市町村議会議員研修　2日間コース 第二回　防災と議員の役割
	3 月　日	用務先
		内　容
	4 月　日	用務先
		内　容
備　考		

岡崎市議会事務局
4. 3. 30

政務活動調査報告書

調査日	2022年1月6日（木）～1月7日（金）
場所	公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所 〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13-1
内容	市町村議会議員研修［2日間コース］ 第2回「防災と議員の役割」

1日目

【講義】13：00～14：30
『災害に備えた危機管理』
【講師】
森総合研究所　代表　森　健　氏

【講義内容】

災害時において

・日本の組織の弱点が露呈
・戦略的な連携がうまくいかない
・単に箇条書きの戦略では勝てない
・コロナで民主主義的な視点　コンプライアンスの点での視点が必要
・職員への安全配慮義務の対象として守ることが必要
・職員が活躍する時に職員の安全確保が必要
・内政統制制度の法改正があります
・粉飾決算を防止するための対策です
・リスクの管理を一元管理する体制が1番大事

・自治体の予算は単年度で視野が狭い、2030 年を見て動くことが必要
・避難指示のあり方や知らせ方ではない
・戦略的に解決していく必要がある
・大胆に変革できるのは議会

ＢＣＰについて

ＢＣＰとは自然災害などの緊急事態において、事業を継続、復旧する計画・対策すること
・危機の本質とは
1 一瞬にして
2 圧倒的な
3 状況の変化が起きること
・危機管理とは？
危機が発生した後の対応
事前対策も含めて危機管理と呼ぶ
企業の BCP も形骸化が進んでいる
中小企業は防災対策をすることが必要です
・テンプレートＢＣＰは中身がない
・ＢＣＰがなくても頭の中にあれば作文する必要はない
・2015 年の関東東北豪雨に茨城県の常総市が問題あって
常総市のホームページに掲載されている

場所の配置も重要

・災害対策本部室の横に防災担当課が場所的に離れており、情報共有がうまくいかなかった

災害対策本部は

一番のキーは情報のコントロール

・情報班に１番優秀な人を配置する
・全員対応はだめ、少数でも役割分担をすること
・事務局が参謀機能を十分果たせない　参謀役は作業はさせない
・軍師役もバックアップを考えておく
・災害の後には必ず訴訟が起きる　そのためにも議事録が必要となる
・地図の活用をきちんとやっておく
・戦略をきちんと示すことがリーダーは必要

防災担当課の役割

実務上の課題
・他の課の担当が本腰にならない
・自治体自身の被災を前提としていない
・住民避難の計画は 75 点でいい
・ハザードマップを見たことない人が多い
・避難の意味がわかっていない避難所にいく？？
・避難中になくなることも多い
・土砂災害警戒情報が発生したら避難情報
・土砂災害は時間差で発災する可能性がある
・情報が不十分だからネガティブな判断をするべき
25 年前にあった事例を参考にするべきだった

・住民の皆さんの判断を求めている体系になっている
・単発の出前講座では解決しない、
・地域にあわせた避難方法を考える
・住民避難は 3-5 年で完成する必要がある
・屋内安全確保を次善の策として活用すること
・立地、地形にあった形でやることが必要
・住民の方に対する防災活動行政側からアウトリーチしていく

BCP とは発災の時のものではなく、

普段からメンテナンスしていく必要がある

・通信に失敗すると戦いに負ける情報が必須項目
・災害が起きたらどの順番で業務をもとに戻すのか？
・各職場の業務分掌表がきちんとしているか？
・業務分掌表の主担当と副担当の関係は機能しているのか？
・職員の異動履歴を整理しておく実務経験の有無に関する情報は非常に役に立つ
・通常の業務分掌表をきちんと作成しておく

【講義】14：45～15：55
『平時の防災と議員の役割』
【講師】
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科教授
代表　鍵屋 一 氏
※災害への対応は平時から意識し取り組んでおくことが必要です。この時間では、後半の演習の導入として、平時から議員として取り組むべき役割についてお話しをいただきました。
【概要】

平時の防災
マネジメントを中心に
・ナマハゲは怠けをはぐ
・防災とは起こったかもしれない被害を潰すこと。
・南海トラフは32万人の死者が想定されている
・津波てんでんこ→みんな自分のことだけを考えて逃げる状態
・障がい者が増えたのではなく、障がい者手帳を取得する人が増えた

・正常化の偏見

・自分は大丈夫　と過小評価してしまう人間の特性敵はからなずしも外側にいるわけではない→これが一番

【講義】16：10～17：30
『平時の防災と議員の役割』
【講師】
防災企業連合関西そなえ隊事務局　湯井 恵美子 氏
※講義を踏まえ、平時における議員の役割について、ワールドカフェ形式による意見交換を行いました。

2日目

1月7日
【事例紹介】9：00～10：10
『大船渡市議会の取組』　【講師】
岩手県大船渡市議会
コーディネーター：跡見学園女子大学　教授　鍵屋 一 氏
【概要】
実際に大船渡市議会のみなさまとオンラインでお話を伺いました。
・人口減少の歯止めが最優先の課題
・防災・減災は最優先課題
・市民に寄り添う議会を目指す　と記載

災害時の対応

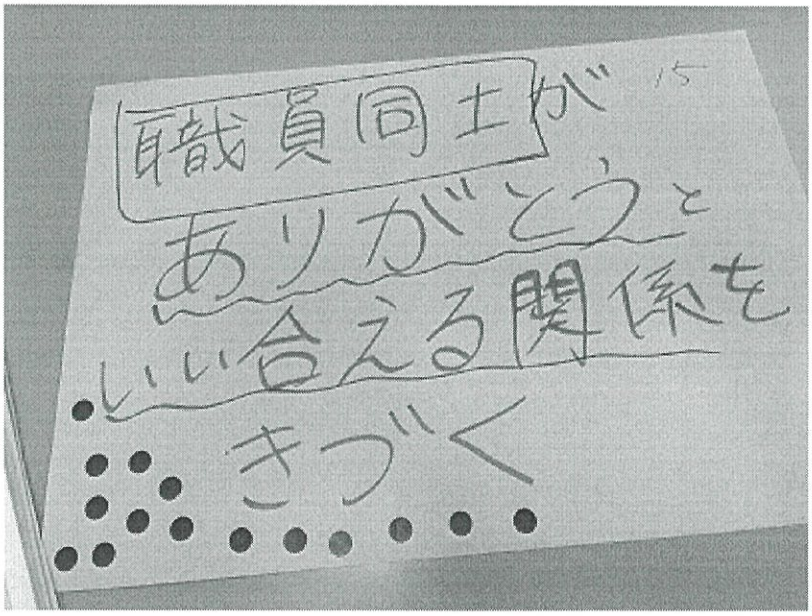
・災害対応指針
・安否確認の方法
・防災行政無線を使う
・参集基準と議員の役割を明確化
・議会の情報を一本化

・災害対応指針を策定することができた
・当時を振り返ると復興の時には震災の前の状態に戻すことが課題
・震災からの復興を成し遂げ、当市を持続可能なものに

質疑応答では

質問　どのように議論を深めていったのか？などが出ました。
回答　→被災を体験しているので、その流れで策定していった
　　平成24年6月に委員会を立ち上げて活動を開始している
質問　災害の際に女性の議員が必要と思いますが、女性の議員の活動は？という質問には
回答　市民の声を吸い上げるのに女性の活躍が必要だと思います。
質問　住民と行政の橋渡しはどのようにされたのか？
回答　様々な要望活動を当局から議会からまとめて行政へと伝えると行政も回答がしやすい

【講義・演習】10：25～13：35（途中昼食休憩有）
『災害時、復旧・復興期の議員の役割』
【講師】
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科　教授　鍵屋 一 氏
防災企業連合関西そなえ隊事務局　湯井 恵美子 氏
※災害時および復旧・復興期における議員の役割についての講義後、グループに分かれて意見交換を行い、議員として何ができるかについて考えました。



↑各グループで災害時にどういうこころ使いが必要かを記載して、発表したもの

【概要】
・地震対策しないと95兆円だとして、耐震化に対しては2兆円の耐震化で67兆円の被害

軽減という考え方をすることが重要
・高知県黒潮町　は耐震化が進みすぎて業者が間に合わないくらい
・成功事例としては郵便配達員を耐震化の個別訪問することや大工が耐震改修に参入した
・2021 年は福祉防災元年
・高齢者等避難
・個別避難計画作成　の努力義務
介護福祉事業所、障害福祉サービス事業者に ３年以内にＢＣＰ作成
・福祉避難所ガイドライン改定
浸水被害の危険がある地区の開発規制等の流域治水関連法
・福祉避難所の問題
繋がりのある地域社会を防災を機に作りたい
福祉防災、地域の連携で強みを生かして、弱みを補完する避難支援体制づくりが重要

【講義】13：45～14：45
『ふりかえりとまとめ』
【講師】
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部コミュニティデザイン学科　教授　鍵屋 一 氏
防災企業連合関西そなえ隊事務局　湯井 恵美子 氏
【概要】
・議会での損失とは何か？
自治体が首長を本部長に、自治体職員を本部員として配置
→議会の関与を嫌っている
・議員の実施事務
災害情報の収集、災害予防、応急対策の方針作成及び実施
・視察は第二の災害となる

防災計画は

魂を入れる心、対話で仲間作りをしていくことが重要

【感想】

防災と議員の役割の研修に参加してわかったことは、自分には起きないだろうという正常化の偏見があるということです。講義の冒頭での鍵屋教授からの問いかけで「地震が起きました、あなたは何をするのか１０個書いてください。」という課題が出ました。どのような行動をとるのかはいくつか書くことができました。しかし、その時の想定では自分自身がケガしたときのことは一切想定しませんでした。これがまさに正常化の偏見というものだと実感しました。正常化の偏見が防災の観点では克服していかなくてはいけないことだと考えま

す。そして、ワールドカフェ方式ではさまざまな意見を出していく中で、意見が出たのは災害が発生したときにいろいろなところから、様々な情報が入ってくることが混乱を招くということです。住民も行政も混乱しており、情報がきちんと伝わらない上に、状況が刻一刻と変化するので、昨日の情報が今日は全然違う情報になっているということも起きることが考えられる。その情報ももとに議員としては行政に情報を伝えることも仕事だと考えるが、議員であるからこそ、市としては対応せざるを得ない場合がある。しかし、各地の議員全員が情報や要望を行政に届けたら、どれも対応しないといけなくなり、時間も人員も限られた状況になっていることを考えれば対応できなくなることも予想ができる。優先順位も付けづらくなる。議員として防災でできることはまずは地元での復旧活動に従事して、地元ができれば地域、その後は市内全域を対象として復旧活動に従事していく。その際に情報を一元化することも必要だと感じました。議会として情報を整理した上で行政に届ける。もちろんそこにはスピード感も必要になってくるので、情報を一元化することに時間を取られてはいけないのですが、行政に必要なものの支援をもらうにはきちんと情報を把握して、届ける必要があります。新型コロナウィルスの感染拡大の状況かでも同じことが言える。感染が拡大し始めた当初は行政もどう動いたらいいかわからない中で、議会は情報の一元化をし、行政に届けるということが行われた。しかし、要望などを届けるスピードが落ちてしまい、鮮度が落ちた情報となってしまったことがあったとのことです。情報の一元化と情報の鮮度のバランスを保つことが必要なのだと考えます。

しかし、それもこれもまずは自分が怪我や被災をしないという条件のもとに成り立つのであって、自分のまわりから防災の観点で日頃から点検をしていく必要があることを痛感しました。そして、まずは怪我や被災をしないためには、防災の意識が絶対に必要なのです。自分だけでなく、周りの人たちにも防犯意識を高める働きかけをしていくことがひとりでも多くのいのちを救うのに重要だと感じました。

日本共産党岡崎市議団
中根善明